

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2013年10月31日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

「くらしにくい」 まともな暮らしを保障させよう

生存権裁判を支援する北海道の会総会

深刻な生活実態を告発

10月26日、生存権裁判を支援する北海道の会の第6回総会が開かれ、45名の支援者が集いました。

総会は最初に、青木紀北海道の会代表のあいさつに始まり、5人の方から雇用・医療・社会保障改悪と増税で、このままでは「くらしにくい」深刻な生活実態の報告がなされました。

まず、審査請求に立ちあがった生活保護利用者の早月俊志さんが、利用に至った経過と利用後の切り詰めた生活、就労指導の厳しさ、冬を前にした不安を述べ、保護費引き下げ中止を訴えました。続いて、8月支給日の街頭宣伝でびっくりするような反応があり、多くの困難者の存在を知った（稲見氏）、労働相談窓口には毎日ひっきりなしの相談が入る（黒沢氏）、お金がなくて病院にかかれない人が増えている（土屋氏）、消費税納入に苦勞する会員さんへの行政の暴言（富堂氏）など深刻な実態が語られました。



**一生懸命働いても、暮らしていけない
道労連議長・黒沢幸一さん**

「毎日ひっきりなしに相談窓口で電話相談させられています」。相談の中には、**就職時に『辞めた場合、1年間は同業種に努めると罰金1300万円』という契約をさせられていた**など、道内のブラック企業の実態や労働者のたたかいについて報告しました。

青木代表は、経済的に追い詰められている大学生の実態を紹介しながら「こうした実態をどう広めていくか」と問題提起し、参加者からも発言を受けました。次に、三浦誠一事務局長より、前総会后2年間の活動の経過・全国の裁判の現状報告と、今後の活動方針、財政報告がなされ、拍手で承認されました。最後に内田弁護団団長は、この裁判の原点でもある「子どもの貧困」を忘れずにたたかいていこうと、総会を締めくくりました。（「希望の明日」65号より）

命と暮らし奪う生活保護「改悪」法案・生活困窮者自立支援法案が国会に再提案

緊迫

11月5日の参議院厚労委員会で提案、短期間の審議で採決の危険

安倍総理や田村厚労大臣、国会議員へ、FAXなどで「改悪やめろ」の要請を



安倍総理 FAX 03-3581-3883 (内閣官房)
田村厚労大臣 FAX 03-3595-2020 (大臣秘書室)

11月も支給日に、各地で宣伝署名行動しましょう。

11月1日(火) 9時から 地下鉄白石駅出口付近でも行います。是非ご参加を

北海道社保学校 in 十勝 (11/10) まで **あと10日** 申し込み受付中

記念講演は 「憲法と社会保障」

講師は 宇都宮健児さん

(反貧困ネット代表 前日弁連会長)

午後から「生活保護問題」の分科会もあります

講演 「やめさせよう！生活保護基準引き下げと制度の改悪」

講師は 三浦誠一さん (道生連会長 北海道社保協副会長)

